

令和 5 年度

事業所名： グループホーム さくらぎ (ユニット①)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100410		
法人名	社会福祉法人 河北会		
事業所名	グループホーム さくらぎ (ユニット①)		
所在地	〒020-0120 岩手県盛岡市高松3丁目13番15号		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の意思を尊重し、その人らしい生活を送っていただけるよう支援しています。月に1回のペースで季節の行事を実施し、楽しんで頂けるよう努めています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、近辺に公園やスーパーなどがある閑静な住宅地に位置し、散歩などの外出支援がしやすい住環境にあり、また、向かいには「老人憩いの家」があって、地域との交流にも取り組みやすい環境でもある。地域の行事に事業所からも参加したり、事業所の広報誌を地域に回覧したりして、交流に積極的に取り組んでいる。安全対策については、対策会議を系列の特別養護老人ホームと合同で実施し、安全に関する研修を職員全員が受講しているほか、リスクマネジメントに関して外部アドバイザーから指導助言を受けている。看取りは行っていないが、医療介護の連携体制を整えており、安心して生活できる環境が提供されている。一人ひとりの個性を重んじ、その人らしい生活が送れるような対応に心掛け、利用者が楽しんでもらえるよう月1回のペースで行事を企画したり、スーパーで好きなおやつなどを購入する「買い物レク」を実施したりしている。普段過ごしているリビングではユーチューブを使って軽体操を行ったり、昼食時には軽音楽を流すなど、何気ない日常の中にちょっとした気持ちの変化をもたらすような働きかけを試みている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の見やすい場所(玄関・リビング)に掲示し周知している。身分証に入れ持ち歩けるようにしている。又、ユニット独自の理念を掲示している。	「利用者の尊厳」を中心に据えた法人の理念とともに、開所時に職員間で作成した「利用者の意思、当たり前の暮らし、地域とのふれあい」を旨とするユニット理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。理念を掲示したり、携帯しているほか、カンファレンスではケアの方向性を理念と重ね合わせ、職員間で共通認識を持つようにしている。	前回の評価後に目標達成計画を作成し、理念に沿った支援についての具体的な目標を掲げ、毎月振り返りを行うこととしておりましたが、これは理念を実践の中で展開する上でも有意義であり、引き続き取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。コロナの影響により地域の活動が取りやめになった期間もあったが、5類になってからは、地域の活動も再開され、夏祭りの見学や作品展参加等行い地域との交流を図っている。	町内会に加入し、資源回収等に参加しているほか、事業所の広報誌を年4回閲覧板と一緒に挟んでもらい、事業所が主催する行事等の周知を図っている。事業所の向かいにある「老人憩いの家」は地域の交流の場となっていて、利用者は、さんさ踊りを見学したり、作品展に出展したりして、地域住民とふれあっている。	前回の評価後目標達成計画を作成し地域とのさらなる連携に取り組んでいますが、災害時における地域の協体制の構築について引き続き町内会に具体化をお願いするとともに、地域に回覧している広報誌に事業所や行事の情報のほか認知症のケアや相談対応などのお知らせも掲載し、事業所の強みを地域にアピールしていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部研修に参加し実践や知識の向上に努めている。運営推進会議や認知症カフェ等で認知症について困りごとあれば助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の近況報告行い、参加者との話し合いの中で、疑問や助言を伺い、日常でのサービス向上に活かしている。	会議のメンバーには、利用者代表、家族代表、地域代表、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員も入っていて、2か月に1回「老人憩いの家」で開催している。会議では、毎回事業所の行事等の状況報告のほか、ヒアリハットの状況と対応策が詳細に示され、丁寧な質疑応答や積極的な意見交換がなされている。職員には議事録を回覧したり、カンファレンス等にて口頭で周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市町村の担当の方も出席頂き、事業所で行っているサービスの実情を報告し助言を頂いている。事故等起きた際には市町村へ届け出を出している。	市介護保険課の職員が運営推進会議に出席しており、その際情報交換や相談助言を受けることができ、連携が図られている。市への届け出等の書類については、法人本部が対応している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせずに対応行っている。夜間は防犯の為施錠行っている。外に出たくなる方に散歩やドライブを行っている。定期的に施設内外の研修に参加し、改めて理解を深め拘束しないケアに繋げている。	法人として毎月安全対策委員会を開催し、管理者が委員として出席して褥瘡、リスクマネジメント、身体拘束等の検討を行っている。その内容は事業所の全体会議やユニット会議で職員に周知し、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束に関する研修は年2回実施し、その中でグループワークによるスピーチロックの研修も行っている。また、リスクマネジメントについて外部アドバイザーから助言指導を得ている。日中玄関は施錠せず、入居したての利用者で外に出たくなる人には、近くの高松の池などにドライブに連れて行ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	委員会や施設内研修を通じ職員全体が周知している。身体面だけでなく精神面、スピーチロック等の虐待にならないよう努めている。配慮の足りない発言に関しては管理者より指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用の対象者はいないが、研修あれば参加し、職員が理解を深めようと努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や契約時には、管理者、ケアマネが対応している。時間と場所(憩の家利用)を用意し質問や不安が払拭できるよう説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、来所時にはご家族様からの意向伺ったり、日々のコミュニケーションの中で意向を伺っている。運営推進会議には利用者様・ご家族様も参加し意見を伺っている。苦情対策担当者も設置されている。	日常の家族との連絡はLINEや電話で行い、そこでのやり取りの中で要望や意見を把握している。また家族が通院付き添いで来所の際にも直接聞いている。さらに年1回匿名の家族アンケートを実施し、そこには自由記載欄も設け、意向を確認し対応している。毎月利用者の様子をお知らせする写真とコメントを家族に送っているほか、年4回広報誌も一緒に送付して家族から話しが出やすいようにしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護スタッフ会議を通じて現場の意見の反映行う機会を設けている。会議で職員からの意見を確認し、都度検討、ケアに反映させている。	日常の業務において、職員と話し合う中で出される意見を聞いて対応している。また、ユニット会議で出された意見・要望は事業所全体の会議で検討し対応している。その中で運営全体に関するものは管理者が出席する月1回の法人会議で検討し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間に問題はないと思う。管理者やケアマネが現場に入る事も増え、職員の休みも取りやすくなったと思う。個人的に相談も行いやすい環境だと言える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修等、毎年研修の機会を設けてくれている。研修参加できなかった職員にはプリントで回覧し周知に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時に他施設職員と交流する機会はあるが、ネットワークづくりや相互訪問の活動は出来ていない(感染症もある為)。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査や、入居時には本人様、家族様との情報共有を心掛けご本人の様子を伺い、今までの暮らしが継続できるような環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階はケアマネ業務だが、本人様の様子、困り事、不安な事や要望を伺った上で現場に伝え、本人様や家族様の意向に沿うよう配慮に努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様の要望伺い、身体状況に合わせた他サービス(内科、歯科往診)を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来る事を行って頂き、暮らしを感じて頂けるよう努めている。また、担当職員制を用い、より傾聴に努めケアの充実と職員間共有を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や来所時、ライン等で日頃の様子を伝え情報共有に努めている。衣類や日常生活の消耗品はご家族様に依頼し、ケアの相談や結果の報告等に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やお友達との面会を受け入れているが、お友達も高齢で連絡が途絶えているケースが多い。ドライブレクでは馴染みの場所に向かい「懐かしい」とお声を頂く場面もあった。	家族との面会は、コロナ禍のため予約により玄関先で行ってきた。オンラインでの面会を行っている遠方の家族もいる。友達から手紙が届く利用者もいるが、多くは月1回訪問する理容師が新たな馴染みの人となっている。馴染みの場所である盛岡八幡宮や高松の池にドライブした際には、利用者は喜び懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を検討し利用者様がコミュニケーションを取りやすいよう環境作りに努めている。又、行事等で1.2階のご利用者様方が交流を図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養(同法人)や他施設へ移られても関わりを持ち、フォローできるよう努めている。また、手続き等の相談にも対応している。		

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人様の意向を伺いケアに繋げている。言葉で表現できない利用者様は、その時の状況や様子で判断したり、家族様に伺い支援している。	日常のケアの中で利用者の意向を確認し、利用者の意思決定を尊重している。言葉で表現できない利用者には、表情や動作で読み取る努力をしたり家族から情報を得たりして、本人の思いを把握するよう努めている。職員間で情報を共有し、利用者の意に沿ったケアができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実地調査やフェースシートの情報を共有し、環境を急変しないよう努めている(馴染みのあるものの配置)。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の把握では、日常の言動等職員間で情報共有しケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前にカンファレンスを行い、日々の様子や心身の状況、できる事やできない事等の情報共有を行いご家族様に伝え、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、新規の場合は作成後2~3か月で見直し、状況が落ち着いたら6か月後に見直しを行っている。モニタリングは職員全員で行い、ケアを実施していく中で対象の利用者で気づいたことなどを記載し、それらを基にカンファレンスを行って介護計画を作成し、家族に説明し、同意を得てケアにつなげている。	モニタリングに当たっては、介護計画の目標を意識して観察したことを軸に情報を共有することで、より利用者の状況に即した計画の作成につながります。利用者の日常生活などをより効果的にモニタリングし、介護計画の目標達成状況やサービスの実施状況をより適切に評価できるよう、モニタリングの様式などを工夫していただくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、新しい事を始める際(薬の変更やセンサーマット使用等)はケース記録を多めに入力し情報収集と共有に努めている。申し送り時や会議時等にケアの検討や実施、評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調面の変化やご本人、家族様の状況、ニーズに合わせ都度対応を行っている。家族受診から往診への切り替え提案、サービス提供ができるよう務めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍では行動制限があり地域の行事に参加できなかったが第5類になった事で夏祭りの見学や地域の作品展への参加等機会が増えてきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には、普段の様子やバイタル、食事、排泄状況を書面で情報提供したりご家族様へ報告し、適切な受診に繋げている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診しており、かかりつけ医が入居前と同じという利用者が15名と多く、家族が通院介助している。家族が付き添えない利用者は訪問診療を受けたり、通院介助のヘルパーを利用している。受診の際、利用者の状態を記載した書面で家族・医療機関と情報を共有している。また、体調が気になる場合には系列の特別養護老人ホームの看護師に相談し、指示を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に1回の会議時や適時に看護師と連絡をとり通院や処置(実際にGHへ来てくれる)のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはケアマネが主に担当し病院の連絡室や看護師と連絡、相談を行っている。また、内丸病院の往診とは相談する機会も多く良い関係が構築出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体上の変化がある場合、管理者、ケアマネが早い段階から今後想定される流れをご家族様に説明し、入院や他施設入所の可能性等の情報提供を行い安心して頂けるよう努めている。	入居時には、看取りはしないという方針を説明し、利用者や家族の了承を得ている。医療行為が継続して必要になった場合や看取りが近づいてきたと判断される場合のほか、介護度が上がった場合には、事前に家族に説明し、病院、施設等への入院、入所の支援を行っている。	看取りはしない方針とはいえ、利用者が急変する状況に遭遇することもあり得ます。重度化した場合や終末期の支援について、一定の理解を深める研修などを行っておくことを期待します。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時にはマニュアルに沿い応急処置を行う。緊急時対応は年1回法人内部研修があり参加できる職員は参加している。参加できなかった場合にも書面配布し情報共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中夜間想定避難訓練を実施している。非常食についても提供方法に慣れる為、食事の形で提供を行っている。地域との協力も運営推進会議を通じて確認している。	火災の避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は夜間想定訓練としている。避難場所は、中庭、次に向かいの「老人憩いの家」である。消防署立会いの訓練では、利用者の退避の仕方について助言をもらっている。地域との協力体制については、町内会へ協力を依頼しているが、町内会では現在災害対応を検討しており、具体的実現にはまだ至っていない。非常食等は系列の特別養護老人ホームに備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様方の性格や生活歴(仕事)の把握に努め、プライバシーやプライドに配慮した声掛け、配慮を心掛けている。また身体拘束の研修も年2回実施し、スピーチロックを取り上げ改めて確認している。	利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって、丁寧な言葉遣いで日々のケアに当たっている。排泄時や入浴時などでは、プライバシーや羞恥心への配慮に心掛けている。研修会でもスピーチロックを取り上げ、グループワークを通して学びを深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の訴えに耳を傾むけるよう努めている。本人様の意向を伺いがいながらできる事はやっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、希望に添えるよう、臨機応変に対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の出来る事はしてもらい、できない所があれば手伝うようケアしている。本人様に決められる範囲内で好みの服装で過ごしていただいている。		



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食時形態を考え提供している。誕生日等、本人様の好みを伺い提供する事もある。食器洗いの実施(出来る方に依頼)。	朝食と昼食は配食サービスを利用しているが、夕食は献立を管理者が作成し、職員がスーパーで食材を購入し調理している。利用者は、スーパーに職員と一緒に買い物に行ったり、盛り付けや食器洗いを手伝ったりしている。敬老の日などには行事食も提供して、いつもと違うハレの食卓作りを行っている。食事の際にはユーチューブから軽音楽を流し、ゆったりした気分で食事を楽しんでもらえるように心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士に助言をもらい個別に食事量を設定している。また、栄養バランスが偏っている方などは家族様の協力により栄養補助食品の提供等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。口腔内観察し、不具合見られた際には、家族へ情報提供し、歯科医への受診に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録行い排泄パターンの把握に努めている。日々の申し送りやカンファレンス等で状況報告。都度変更行っている。	記録による排泄パターンや落ち着きない行動などを確認しながら声をかけ、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。声のかけ方も職員間で情報共有し、利用者の意図を汲み取れるよう心掛けている。多くの利用者は、自立してトイレで排泄できたり、声掛け誘導により一人でトイレで排泄できる状態にあり、一部介助が必要な利用者は少ない。多くは昼用パットを使っているが、一部夜間に夜用パットを用いる利用者もあり、事前に家族から了解を得て準備してもらっている。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の記録と共有を行い、水分摂取等工夫している。また、主治医に報告し下剤処方してもらったり毎日の体操を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回の設定で、本人様の意向、体調に合わせて対応してる。	入浴は原則として週2回午後の時間帯に行っているが、希望により午前時間帯の入浴もある。職員と1対1になるため、昔話を懐かしんでする利用者もいて、ゆったりした気持ちで入浴できるよう心掛けている。また全身観察の場でもあり、気になることは系列施設の看護師に相談し、助言を受けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自由に居室で休まれている。室温管理にも留意している。夜間は巡視行い、変化ある際には個別対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際に内服薬の変更あった際には情報共有すると共に、経過観察記録を多めに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクとして「食器洗い、洗濯干し、洗濯たたみ等」を実施している。行事や日々のレクの実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人材配置によって難しい日はあるが、買い物レクやドライブ等を実施している。	週2回食材購入の際、順番に利用者も1人ずつ職員と一緒にスーパーに出かける「買い物レク」を実施している。また、年間を通して桜・紅葉の花見ドライブ、系列施設で行われる「ちゃぐちゃぐ馬コ」の見物、「老人憩いの家」での夏祭りや作品展覧会の見学、敷地内でテントを張った夏まつり、花壇の花植えなど、メリハリのある生活が送れるよう、外出支援に努めている。	前回の評価後、毎月外出の機会を設ける目標達成計画を立てていますが、引き続き、気分転換や五感刺激のため、天気の良い日には、散歩や買い物などで外に出かける機会をより多く作っていかれるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	該当者は1名。数千円を所持。自販機でジュースを買われる。家族様訪問時に家族様と残金確認されている。家族様とは事前に紛失可能性ある事や職員が介入しない事を取り決めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば電話できる環境ではある。携帯電話の持ち込みも禁止はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内や浴室の温度管理も実施している。夜間トイレの照明が気になる方の採光窓には目張りも実施している。季節感を取り入れ創作物の掲示等行っている。	共有空間は、温度、湿度、採光などが過ごしやすく調整されており、清掃も行き届き、快適に暮らせるように環境が整備されている。食堂兼リビングには、テーブル、椅子、テレビ、ゆったりできるソファがあり、利用者はレクリエーションや作品作りを楽しんでいる。職員と一緒に作った季節感を取り入れた作品はホールに飾られている。	前回の評価後に目標達成計画を立て、日々の生活の中に庭での外気浴やお茶の時間などを取り入れることにしていますが、引き続き、生活に変化や楽しみを作るこのような取り組みを行うことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他利用者様との関係に配慮し食事席を設定したり、ソファの設置等行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、ご家族様と相談の上、馴染みの家具等持ってきて頂き、過ごしやすいよう工夫している。	居室にはベッド、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。利用者によってはテレビ、ラジオ、使い勝手のよい日用品などを持ち込んでいる。居室の入口には、利用者にわかるような写真等の飾りつけが目の高さであり、自分らしさを表現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体能力に応じた食事席にも配慮している。トイレや各居室にもわかりやすいよう名前を表記している。		